



ことばのカタライアル第 7 号「国内航海実習」

9 月 18 日 (水) から 25 日 (水) まで、航海船舶コース 2 年生 17 名が、初めての長期航海となる「国内航海実習」に取り組みました。

本校を出港し、日本海、瀬戸内海を経て、大阪港を目指しました。

航海船舶コース 2 年 今村 颯太

今回の国内航海で一番印象に残っていることは、寄港地活動だ。今回は、さまざまな職業を体験または見学することにより、私の進路実現に向けてよい経験になったと思う。そしてさまざまな職業を見て一つ共通点があると考えた。それは、どの職業も案内していただいた人を見ていると、仕事にやり甲斐を持っていると感じた。仕事にやり甲斐を持つというのは進路を決めるにあたって最も重要になってくると前々から思っていたが、今回の寄港地活動を経て、その考えは確信に変わったといえる。

今回の国内航海を経て、自分たちが日頃行っている実習は、仕事にやり甲斐を持っている人たちによって成り立っていること理解した。このため自分たちも、そのような人たちに伝えるべく航海船舶コースとして、やり甲斐を持ち実習をやっていくべきだと考えた。

航海船舶コース 2 年 加藤 奎伍

今回の国内航海実習は私たちにとって初めての長期航海であった。まだまだ実習経験も少なかったため、最初は不安や心配が多くあった。しかし、実習を終えた現在は、自身でも成長を感じることができ、達成感にも満ち溢れ、清々しい日々を送ることができている。

実習中、最も私の成長の糧となったのは航海当直である。1 回の航海当直は 4 時間と長く、時には夜 0 時から朝 4 時の中、眠気と疲労に奮闘した日もあった。日本海航行中は海が荒れ、船体が揺れるとともにひどい船酔いに見舞われることもあった。瀬戸内海航行中は比較的波は穏やかであったが、他の船舶が多く航行しており、緊張感のある空気感が長く続くこともあった。普段の座学で学んだ知識と、実際に自身の目で見て体験したことが合致し、船員として必要となる知識の定着にもつながった。

寄港地活動では、さまざまな会社を見学でき、日常生活では体験することのできない貴重な体験ができたとともに、卒業後の進路に対する視野も広がったと考える。

航海船舶コース2年 小長谷 勇斗

国内航海実習を終えて、初めての長期航海で少し緊張していました。

寄港地活動では、関門海峡海上交通センター様を見学し、関門海峡を通って港に入る船の航路を案内し、海峡内の安全を守るためにたくさんの方が素早く動いていて、さらには、外国船にも英語で対応していて感心した。

西日本ニチモウ（株）様では、ウルトラクロスネット（UC）という耐久性の高い網の製造過程を見学し、機械が複雑に動いていて目が追いつかないほど速く正確に編んでいて驚きました。ロープの破断実験を間近で見て、私たちの実習船「みずなぎ」を係留しているロープでも大きな力がかかると簡単に切れてしまうと同時に、切れる瞬間に近くにいると最悪死に至ることがある危険性を学ぶことが出来ました。

航海中に船が行き交う中で、すぐに判断し、衝突を防ぐなどといった動作も見ることが出来てしっかり学ぶことが出来ました。

航海船舶コース2年 花城 比華里

私は、この国内航海に出港する前、とても楽しみにしていました。しかし、実際行ってみるととても辛かったです。一日目、日本海では船が揺れ酔いと闘いながら過ごした一日でした。二日目の朝に下関に着き、西日本ニチモウ（株）様の見学をしました。三日目には関門海峡海上交通センター様と株式会社シモセン様の見学をしました。五、六日目は大阪で水上警察様や内航船組合様の見学をしました。いろいろな会社の説明を聞いて初めて知ることが多く勉強になりました。七、八日目は大阪から京都に帰り八日間辛かったです。学校が見えたときには嬉しくなり笑顔になりました。この八日間の中に寄港地活動があるのですがあまり馴染めずどうしたら良いのかわかりませんでした。楽しく過ごしたかったのですが、すべてマイナスに考えてしまい、良い思い出が出来ませんでした。来年の国際航海が二週間だと考えると、船内生活等ではコミュニケーションを取ることがとても大切だとよく分かりました。

